

第1学年 算数科学習指導案

児童 1組 男子13名 女子10名 計23名
指導者 菊池幹子

1 単元名 かたちあそび (東京書籍 1年)

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、立体図形や平面図形についての基礎となる経験を豊かにすることをねらいとしている。

子どもたちは、積み木遊びが好きである。また、「四角い形」「真四角な紙」「三角おにぎり」など形を表現する言葉を使うことができるが、認識はまだ漠然としたものであり、形そのものを明確に意識しているわけではない。本単元では、まず、身の回りの材料を使って形を構成する活動をする。次に使った形の特徴や機能に焦点をあてて形を分類する。最後に立体図形の一面を紙に写し取る活動を通して平面図形に着目させる。これらの活動を通して図形の素地的な意識を培っていききたい。

(2) 子どもたちについて

子どもたちは、幼い頃より積み木で遊ぶ経験を繰り返してきており、遊びながらものごとの特徴を直感的につかんでいる。立体図形の「転がりやすい」とか「倒れにくい」といった機能的な面は、体得しているが、言葉に表すことは難しいと思われる。また、色や材質、大きさなどの属性にとらわれる子どももいると思われる。そこで、子どもたちの自分なりの表現を大切に、友達の考えをお互いに聴き合うことにより、図形に対する見方を広げさせていきたい。

(3) 指導にあたって

子どもたちの発見やつぶやきを大切に、授業の中で生かす工夫をしながら指導にあたるようにしたい。それぞれの立体図形が持つ特徴や機能に着目した言葉をよく聞きとって、学級全体で共有化し、一人ひとりが形について理解を深めていけるようにしていきたい。

3 単元の目標

身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形についての理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。

【関心・意欲・態度】 身の回りにあるものの形について、観察や構成・分解したり、形の特徴や機能をとらえたりしようとする。

【数学的な考え方】 身の回りにあるものの形について、形以外の属性を捨象して形を認めたり、立体の面の形に着目したりして、形の特徴や機能をとらえることができる。

【技能】 身の回りにあるものの形について、その概形や特徴、機能をとらえ、分類することができる。

【知識・理解】 身の回りにあるものの形の観察などを通して、基本的な立体図形の特徴や機能をとらえ、図形について豊かな感覚をもつ。

4 単元の指導計画 (5時間)

- 身の回りの具体物の概形をとらえ、立体図形の特徴や機能を知ること (2)
- 身の回りの具体物を概形や特徴、機能から分類すること (1) 本時
- 立体図形を構成する面の形に着目すること (2)

